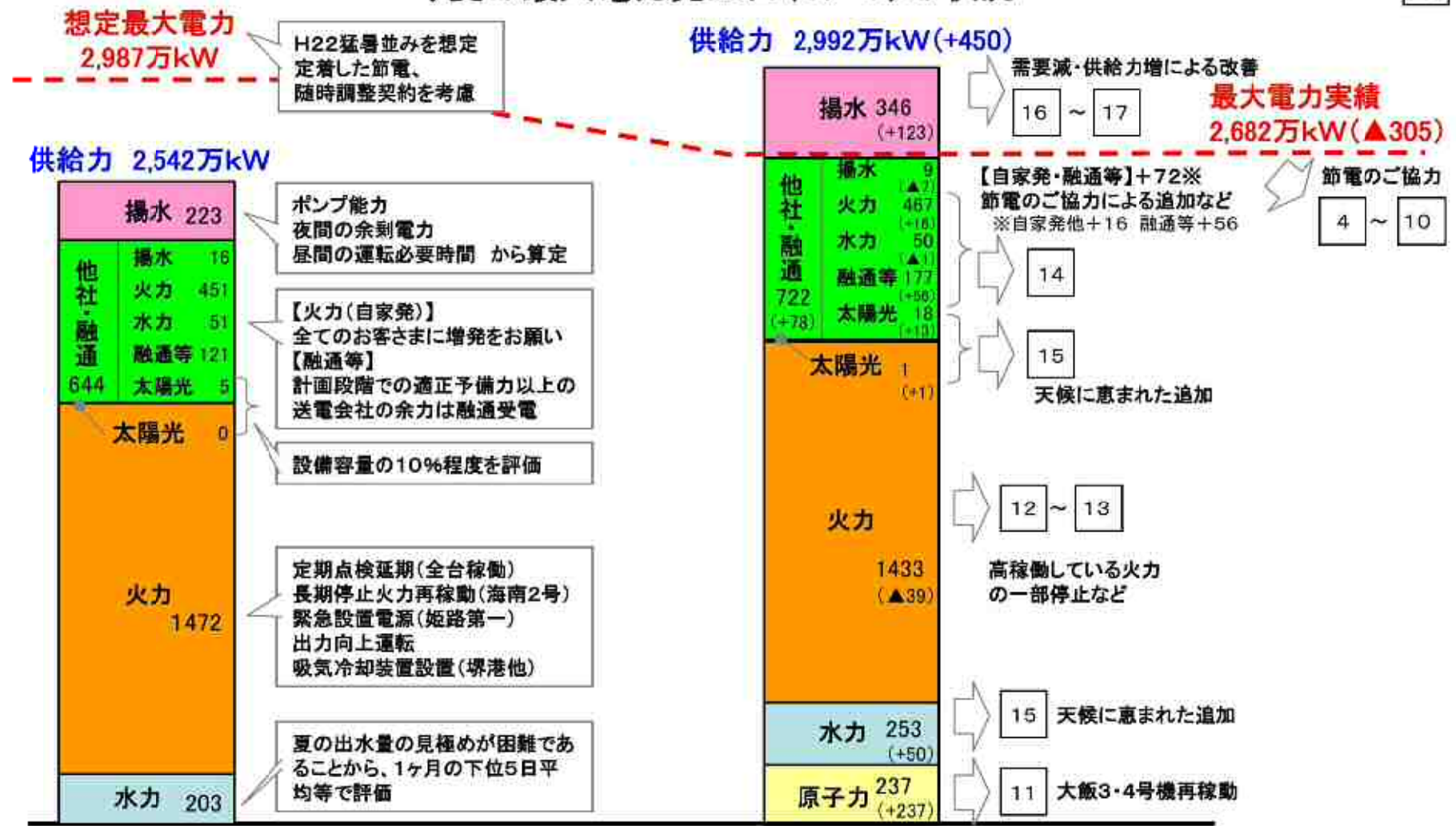


# 今夏の電力需給について

平成24年10月13日  
関西電力株式会社



# 今夏の最大電力発生日(8/3)の状況



今夏(8月)の見通し  
(5月19日報告)

8月3日

○お客さまの節電のご協力により需要が大幅に減少しました。(2,987万kW→2,682万kW、▲305万kW)

○大飯3・4号機の再稼働や、天候による水力・太陽光の増、結果としての揚水の改善により、供給力が増加しました。  
(2,542万kW → 2,992万kW、+450万kW) 以上の結果、今夏の需給状況は安定しました。

※四捨五入の関係で合計が合わないことがあります。

## <「需要」に対する振返り>

○今夏の気象状況

○14～15時の最大電力の比較〔対H22年比〕

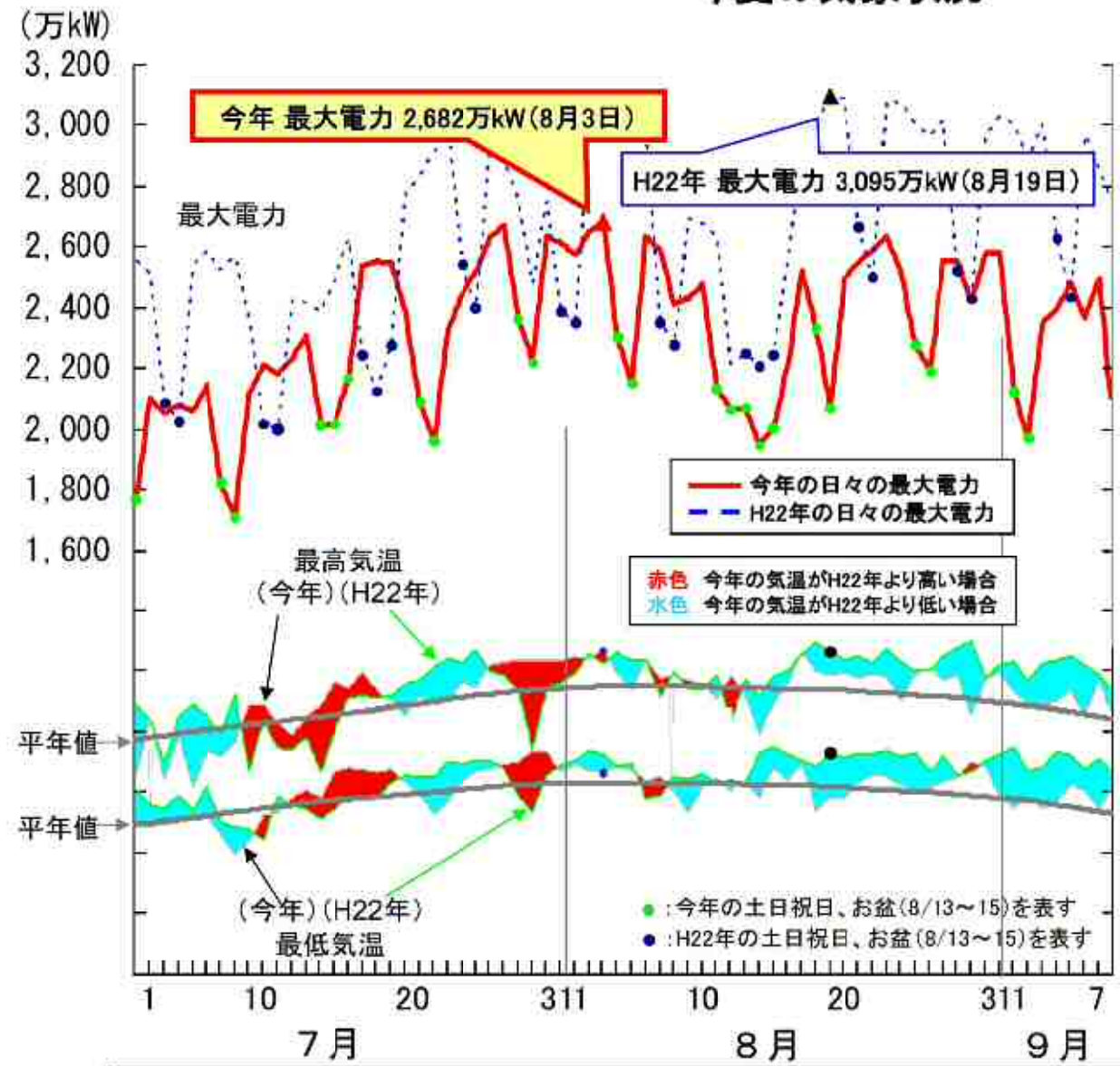
○今夏の取組み

ご家庭のお客さま

法人のお客さま



# 今夏の気象状況



## ◎気温 (°C)

H24年7月		平年差	H22年差
平均	27.8	+0.4	▲0.1
最高	32.0	+0.4	±0.0
最低	24.8	+0.5	±0.0

H24年8月		平年差	H22年差
平均	29.4	+0.6	▲1.1
最高	34.3	+0.9	▲0.9
最低	25.8	+0.4	▲1.4

H24年9月*		平年差	H22年差
平均	27.7	+0.5	▲2.9
最高	32.7	+0.9	▲2.7
最低	24.4	+0.5	▲3.2

## ◎猛暑日(最高気温35°C以上) (日)

H24年		平年差	H22年差
7月	6	+3.1	+2
8月	6	▲1.9	▲14
9月*	0	-	▲5

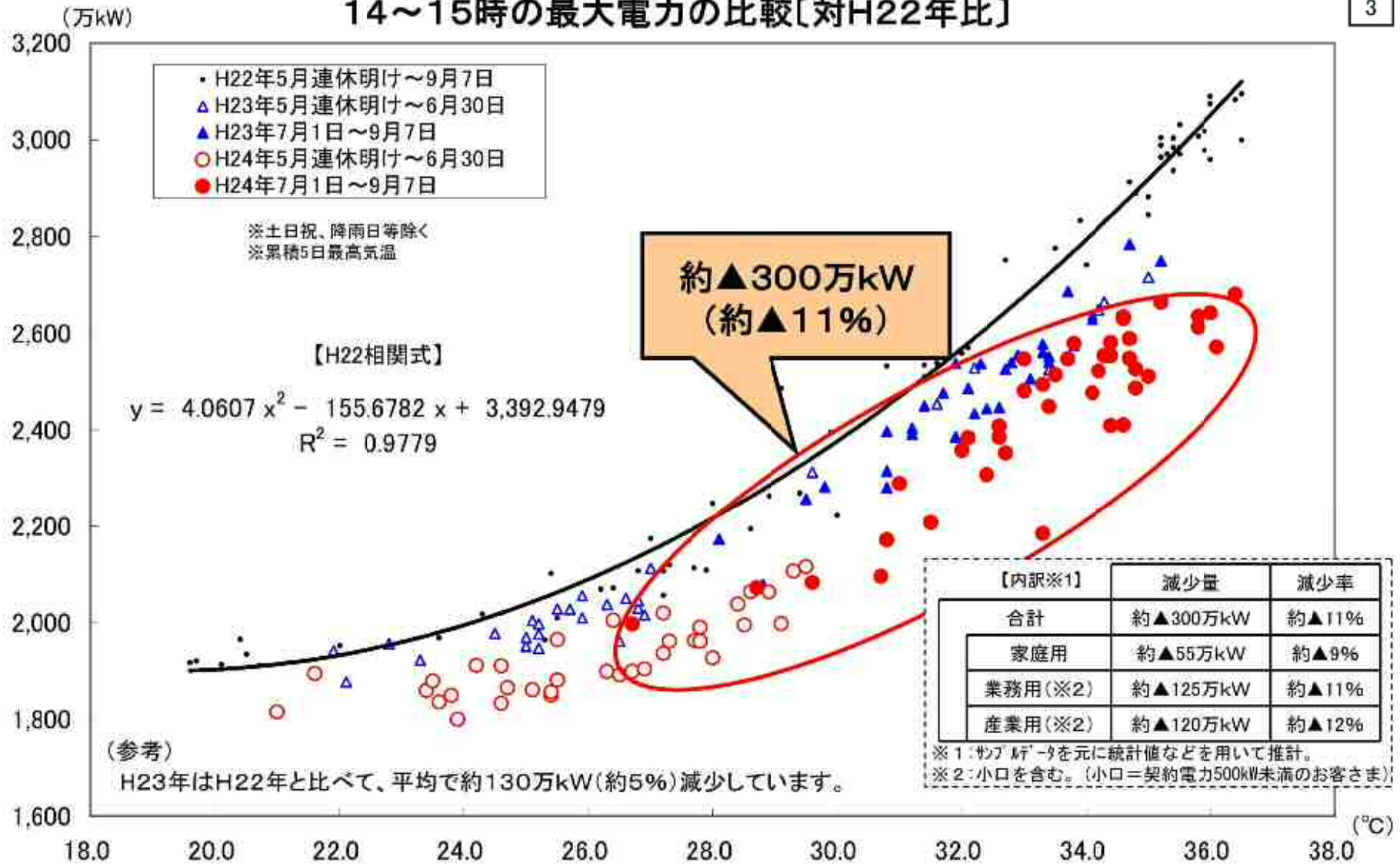
## ◎熱帯夜(最低気温25°C以上) (日)

H24年		平年差	H22年差
7月	15	+2.1	+2
8月	24	+4.2	▲5
9月*	2	-	▲5

※9月7日まで

今夏の大阪の気象は、7月下旬から8月初旬が高気温となり、期間を通すと、平年より少し暑いものの、H22年よりは低めに推移しました。

### 14～15時の最大電力の比較〔対H22年比〕



○節電をお願いさせていただいた7/2から9/7までの実績では、H22年と比べて、平均で約300万kW(約11%)減少しました。この中に節電効果が含まれているものと考えられます。  
 ○家庭用で約9%、業務用で約11%、産業用で約12%、減少しました。



※実績については、9月7日時点

項目	内容	平成24年夏季	(参考)平成23年夏季
個別PR	パンフレット	約54万部	約54万部
	ポスター／店頭チラシ	ポスター:約5万部 店頭チラシ:約20万部	ポスター:約2万部 店頭チラシ:約35万部
	全戸チラシ／検針票[裏面利用]	約1,200万軒	約1,200万軒
	垂幕掲示(弊社事業所)	28箇所	9箇所
	街頭でのPR	約490回 ※自治体様との共同実施分を含む	約250回
見える化の推進	「はびeみる電」の遡適(検針WEB)	約159,000件(申込受付) ※累計:約296,000件	約8,300件(申込受付)
節電インセンティブ施策 「節電トライアル」	お申し込みいただいたお客さまのうち、平成24年7～9月分の電気使用量(kWh)の合計を、平成23年7～9月分の電気使用量(kWh)の合計と比較し、削減率に応じてQUOカードを進呈	申込受付:約196,000件 節電トライアル宝くじ 申込145,000件  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5</span>	今夏(平成24年夏)導入により実績なし
新たな料金メニューの設定 「季特別電灯PS」	ピーク時間以外の時間帯へ負荷移行を促進	加入件数:約7,300件  <参考> ・申込受付 :約13,000件 ・コンサル中 :約 100件 ・申込取消 :約 5,600件	今夏(平成24年夏)導入により実績なし
次世代層への節電のお願い 「小学生 夏の節電チャレンジ」	関西広域連合と連携し、小学校にてチャレンジシートを配布 家庭での節電への取組みを計画し、取組結果を事務局に送付いただく	応募数:約7,200件 ※小学校に約110万枚配布	昨冬(平成23年冬)導入 応募数:約6,100件 ※小学校に約110万枚配布

## &lt;実施概要&gt;

- 応募対象 : 下記の契約種別にてご契約いただいているお客さま  
従量電灯A・B/時間帯別電灯/季特別電灯PS/はぴeタイム(プラン)/低圧電力/低圧総合利用契約
- 応募期間 : 平成24年6月1日(金)~7月31日(火)
- 達成条件と賞品 : 7~9月分の電気使用量(kWh)合計の削減率(H23年比)に応じて、QUOカードを進呈

●5%以上10%未満 ⇒ 500円分    ●10%以上15%未満 ⇒ 1,000円分    ●15%以上 ⇒ 1,500円分

<申込件数> : **約196,000件※** (参考)節電トライアル宝くじ:約145,000件

※申込件数は、ご転宅等により前年実績がないお客さま(約7,000件)を含む。

<達成状況>  
(7・8月分実績)

> 15%以上 約60,000件 (32%)  
 > 10%以上 約27,000件 (14%)  
 > 5%以上 約32,000件 (17%)  
 > 未達成 約70,000件 (37%)

(参考)節電トライアル宝くじ

> 15%以上 約48,000件 (33%)  
 > 10%以上 約21,000件 (15%)  
 > 5%以上 約24,000件 (16%)  
 > 未達成 約49,000件 (36%)

○7・8月分実績時点において、節電トライアル申込者の約半数が、10%以上の削減率(kWh:対H23年比)を達成していただきました。

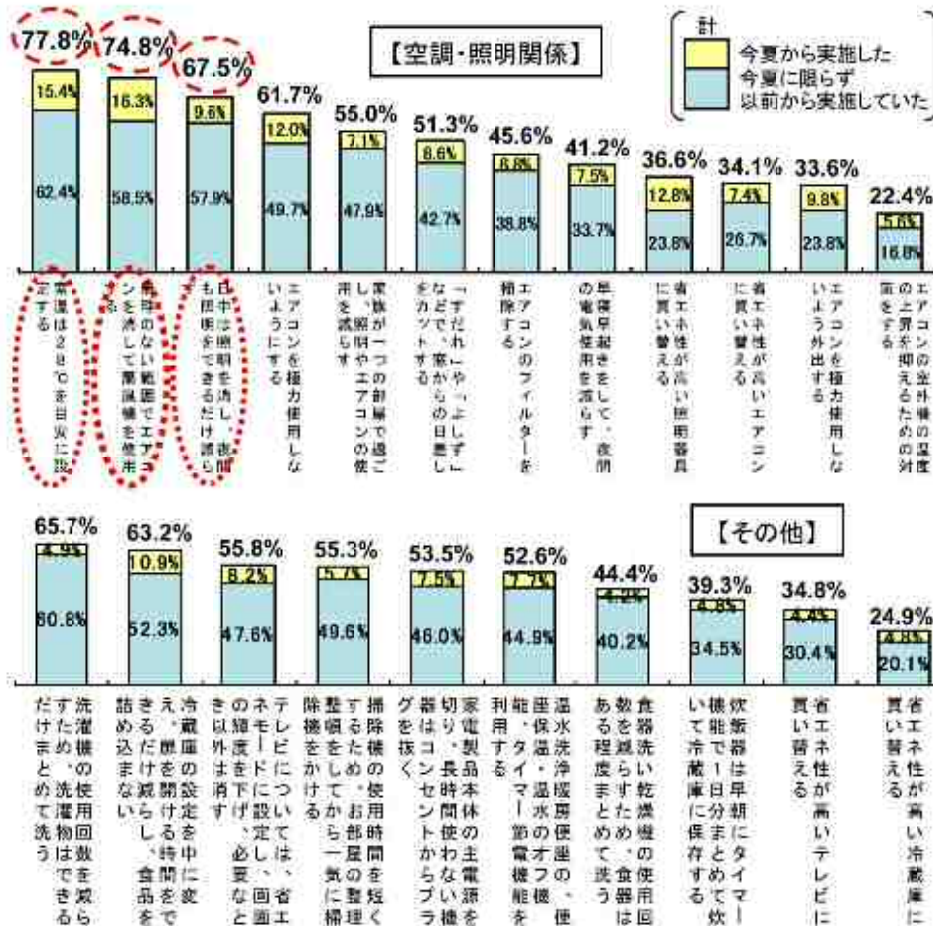
○家庭用全体と節電トライアル申込者の7・8月分の電気使用量の削減率を比べると、申込者の方が家庭用全体より削減率が大きく、より積極的に取り組んでいただいたものと考えられます。

7・8月分実績における削減率(kWh:対H23年比)  
 節電トライアル申込者 **8%** 家庭用全体: **5%**



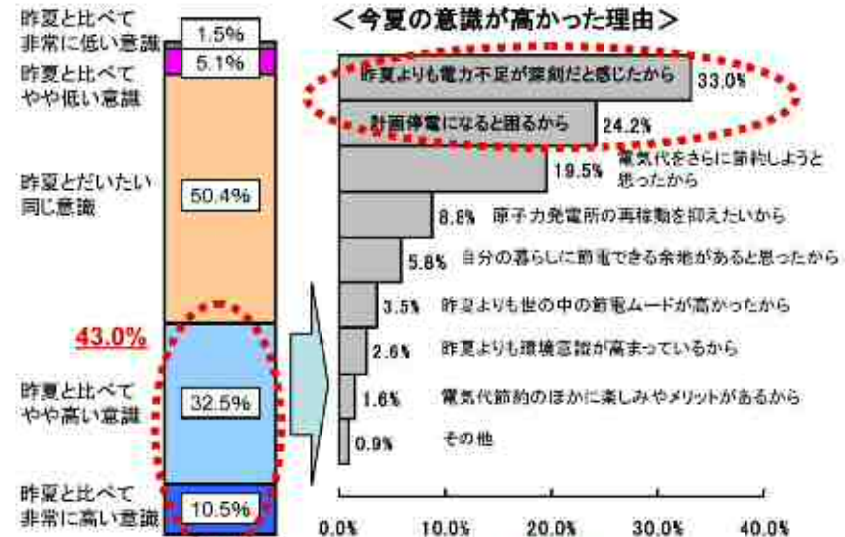
■実施した節電方法

<調査方法> 対象:関西2府4県の20~69才 男女1,000人  
 期間:8/31(金)-9/2(日)、方法:インターネット調査



■昨夏と比べて際の今夏の節電意識

<調査方法> 対象:関西2府4県の20~69才 男女1,000人  
 期間:9/14(金)-9/16(日)、方法:インターネット調査



- ※「昨夏よりも電力不足が深刻だと感じた」理由 (自由記述N=142)
- ①原子力発電所が全て停止していたから(38.7%)
  - ②テレビ等で頻繁に報道されていたから(16.9%)
  - ③計画停電のお知らせがあったから(14.1%)
  - ④政府・自治体、関電が頻繁に呼びかけていたから(12.7%)

○具体的な節電方法は、「エアコンの室温28℃設定(約78%)」「エアコンを消して扇風機使用(約75%)」「不要な照明消灯(約68%)」の順。  
 ○「(昨夏より今夏の方が)節電意識が高い」と回答したのは約43%。  
 ○「(昨夏より)今夏の節電意識が高かった」主な理由は、「昨夏よりも電力不足が深刻(約33%)」と「計画停電になると困る(約24%)」。原子力の再稼働問題や計画停電のお知らせ、さらには三者(国、広域連合、当社)による呼びかけなどにより、需給の深刻さが伝わったものと考えられます。

※実績については、9月7日時点

項目	内容	平成24年夏季	(参考)平成23年夏季
訪問等の状況	お客さま(500kW以上)訪問	約7,000件	約7,000件
	お客さま(500kW未満)への ダイレクトメール送付	約11万件	約11万件
	業界団体への訪問	産業用:74団体 業務用:51団体	産業用:89団体 業務用:45団体
随時調整契約	瞬時調整特約 当社の供給設備の事故、予想外の需要の急増による電力需給 逼迫時に強制的、もしくは当社からの通告で負荷を遮断する ことに対し電気料金を割引	24件 約36万kW	24件 約37万kW
	通告調整特約 当社からの通告により、翌日に実施される大幅な負荷抑制に 対し電気料金を割引	155件 約8万kW	4件 約1万kW
	随時調整契約の合計 <small>※随時調整契約kWは契約値</small>	179件 約44万kW	28件 約38万kW
計画調整特約	休日特約 休日の振替や新たな休日の設定など、1日単位での負荷調整	3,609件 約193万kW(注)	1,709件 約100万kW(注)
	操業調整特約 プラントの補修や長期休日の設定など、週単位での負荷調整	〔14時～15時〕 最大189万kW、最小122万kW (注)計画調整特約kWは、日毎の契約調整電力 合計値の最大値	(注)計画調整特約kWは、日毎の契約調整電力 合計値の最大値
	ピーク時間 調整特約 空調機器の一部停止や自家発の発電増加など月単位での 負荷調整		
需給調整	デマンドカットプラン (需給調整特約S) 最大需要電力が前年同月の最大需要電力を下回る場合に、 それに相当する電気料金を割引	約78,300件 約59万kW(注)  (注)平成22年同月の最大需要電力と当月の最大需要電 力との差であり、結果としてご協力いただいた数値。	約61,000件 約53万kW(注)  (注)平成22年同月の最大需要電力と当月の最大需要電 力との差であり、結果としてご協力いただいた数値。

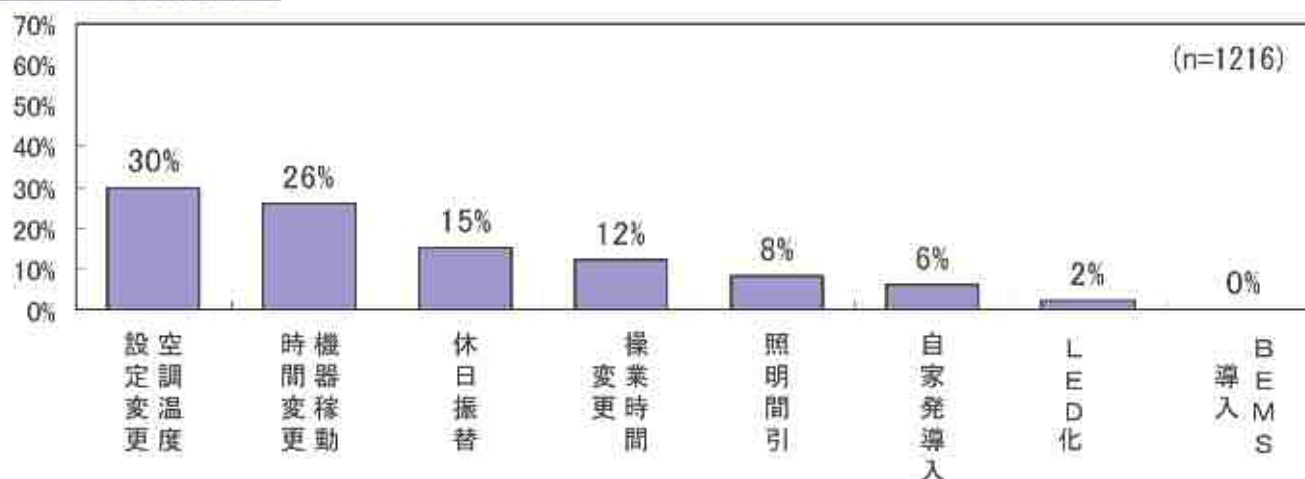


※実績については、9月7日時点

項目	内容	平成24年夏季	(参考)平成23年夏季
アグリゲーター等活用	BEMSアグリゲーターとの協業によるピーク抑制 (依頼タイミング:需給逼迫が予想される日の前日の午後)	16事業者と契約締結 約450件 約0.5万kW	今夏(平成24年夏) 導入により実績なし
ネガワットプラン	需給逼迫時にお客さま側で負荷を抑制していただける電力(ネガワット)を入札により募集 (依頼タイミング:需給逼迫が予想される日の前週の金曜日から前日までの間で、追加的な負荷調整が必要とされる日毎に入札を実施)	16件の登録	
管外のお客さまとの ネガワット取引	他電力、アグリゲーターにご協力をいただき、当社管外の大口のお客さまとネガワット取引を実施し、これによって生じる他電力の供給余力を融通送電いただくもの (依頼タイミング:需給逼迫が予想される日の前週の金曜日から前日までの間で、追加供給力が必要とされる日毎に入札を実施)	4件の登録 (管外のお客さまとアグリゲーターが契約)	



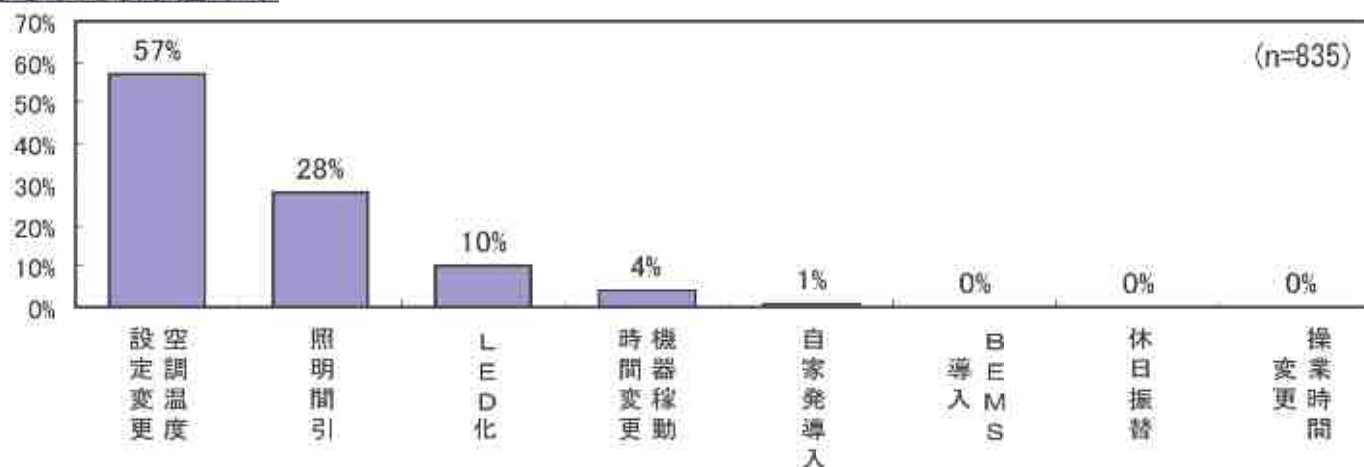
Q:最も節電に寄与した取り組みは



## お客さまの声

- 大飯再稼働前の15%以上の節電は、従業員に負担がかかっていたが、大飯が再稼働し需給が安定して良かった。（化学）
- 工場の生産機能の一部を近畿圏外へ移したこともあり、節電目標達成に至った。現状のエネルギー使用も満足に出来ず、コストだけ上がるようであれば、ものづくりが国内で出来ないような状況を生み出す。（機械）
- 計画停電を回避することができ、本当に良かった。計画停電を回避するために、コストの高い自家発電設備を増出力して節電をせざるをえず、昨夏に比べてコストが増大した。運用で対応出来る節電は既にやりつくしている。（その他）
- 食料品は日持ちがしないため、生産をシフトすることが出来ない。また、受注により電力使用が大きく変動するため、ピーク調整を行うことも難しかった。（食料品）
- 半導体業界は、24時間稼働で負荷率も高いため、急な停電（計画停電）には対応出来ない。今夏は計画停電の可能性のある時間帯については、生産ラインの停止などの対策を実施したものの、停電が頻発するようであれば、死活問題である。（計画）停電の可能性のある限りは安心かつ計画的に生産を行えない。（半導体）
- 今後の需給見通しによっては、節電対策への多大な設備投資を検討せざるをえない状況にあり、早く需給を安定化させて欲しい。（電気機械）
- 節電には協力をするが、節電や計画停電により生産計画を変更出来ない。（自動車）

Q: 最も節電に寄与した取り組みは



## お客さまの声

- テナントへ節電をお願いする場合、国などからの強制力がなければ難しい。（事務所ビル）
- 今夏と同じレベル（15%以上）で節電に永続的に取り組むのは困難であるが、H22年比10%程度の節電は今後も継続していく。（金融、事務所）
- 昨年よりも積極的に節電に取り組んだ。当初は、室温をあげると売り上げが下がると考えていたが、実際に空調温度を上げた状態で今夏を乗り切ったが、売り上げが下がることがなかった。（百貨店）
- 今夏はかなりの手間をかけてフロアごとの（空調の）間欠運転を実施したが、お客さまから特段の苦情もなかった。節電に対してのお客さまの意識が変ってきたと感じている。（百貨店）
- 昨年比べてコストをかけてLED照明を導入したため、昨年以上に節電効果が出た。今夏の節電は設備担当が非常に頑張ってDM制御を行った結果であり、今夏の節電が限界である。（スーパー）
- 今夏は従業員の家に対しても節電を徹底するように伝えた。消費者の意識が変って、節電をすることが当然になってきていると感じている。（スーパー）
- 非常用発電機はもともと必要な設備の一つであるが、それを今夏の節電、計画停電に対応するために購入。節電関係による出費がかさむことは非常に苦しい。（病院）
- 万が一計画停電の可能性がある状況では、事前に発電機の対応など色々と準備をしてきた。患者の体調面も気にしながら、空調の温度設定や照明の消灯等、できる限りの節電に取り組み苦労した。（病院）

<「供給力」に対する振返り>

- 原子力の状況(安全確保対策の多重化と多様化)
- 火力の状況(追加供給力の確保)
- 火力の状況(トラブルの発生状況)
- 他社・融通等の状況(8/3の状況)
- 水力と太陽光の状況(8/3の状況)
- 揚水の状況(8/3の状況)



## 原子力の状況(安全確保対策の多重化と多様化)

### 電源確保

空冷式非常用発電装置等による電源の確保



電源車



空冷式非常用発電装置

### 水源確保

消防ポンプ等による給水の確保



消防ポンプ



大容量ポンプ

### 浸水対策

扉・配管貫通部等のシール施工



扉のシール施工



水密扉



大飯発電所3・4号機

大飯3・4号機再稼働工程	
3号機	6/16 起動 7/1 7/9 定格熱出力一定運転 8/3 総合負荷性能検査
4号機	6/21 起動 7/18 7/25 8/16

- 福島第一原子力発電所事故から得られた知見を踏まえ、安全確保対策(電源確保・水源確保・浸水対策)の多重化と多様化を図りました。
- 安全最優先に大飯3・4号機の再稼働に取り組み、安定して電力を供給しました。
- 当社管内のみならず西日本全体の節電目標の見直しや、計画停電リスクの大幅な軽減につながりました。また、高稼働を続ける火力や水力の柔軟な点検・保全が可能となる等、供給設備全体の安定的な運転につなげることができました。

## 火力の状況(追加供給力の確保)

項目	追加供給力	計画時点(5月19日報告)からの前倒し実績	
		計画	実績
長期計画停止機(海南2号)再稼動	45万kW	8月	7月16日
小型ガスタービン設置(姫路第一)	1GT	8月中旬	8月8日
	2GT		8月13日
吸気冷却装置設置(堺港、姫路第一)	6万kW	8月	6月28日



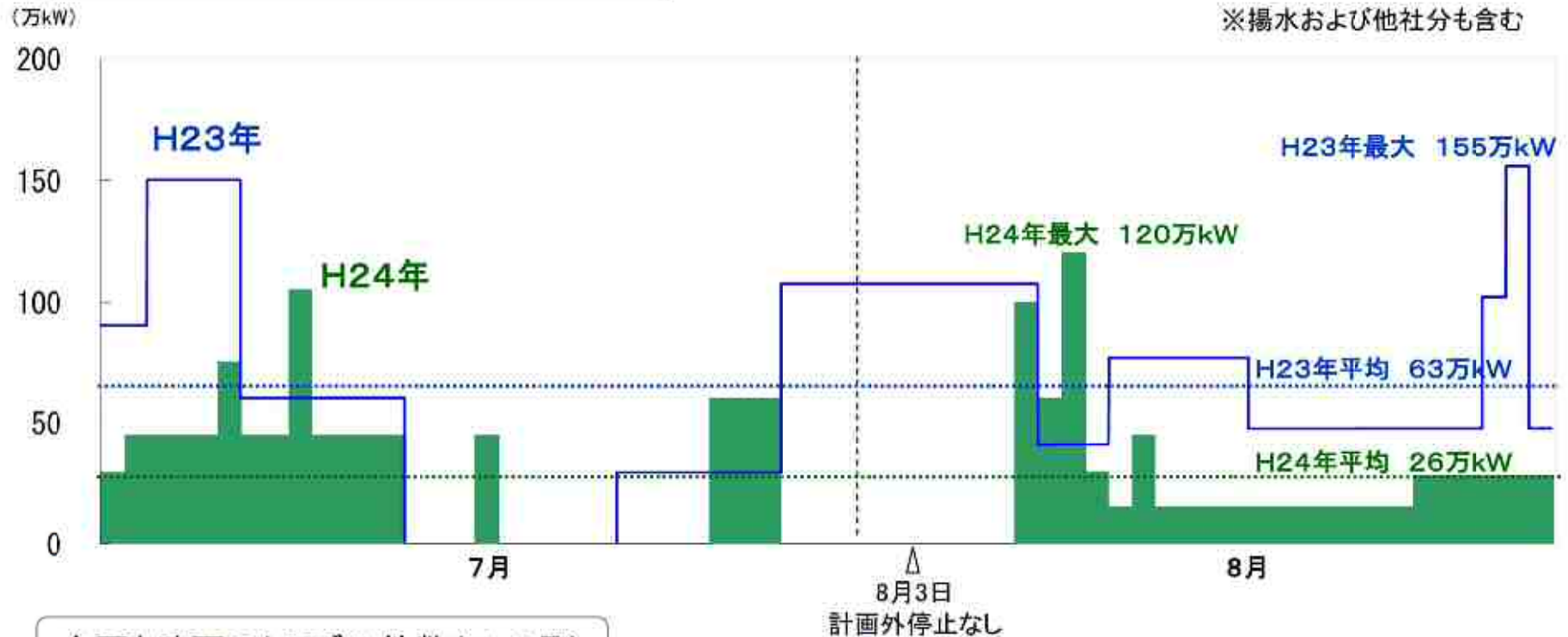
海南2号機 発電機回転子巻線の搬出



- 今夏に計画していた海南2号機の再稼動など追加供給力確保の取組みは、当初予定を前倒しすることができました。
- 特に、海南2号機は、数万箇所の設備検査が必要でしたが、延べ12万人、最大880人(1日)の作業員の昼夜交代作業により、約2週間の前倒しが実現できました。

## 火力の状況(トラブルの発生状況)

### 今夏と昨夏の日々の計画外停止の状況



### 今夏と昨夏のトラブル件数(7・8月)

	H23	H24
トラブル件数(件)	18 (0)	61 (22)

( )はクラゲによる影響

- 今夏は計画外停止が平均26万kWであり、H23年の平均63万kWを下回りました。
- 最大電力が発生した8月3日は計画外停止が発生しませんでした。
- 現場での巡回点検の強化や協力会社を含めた早期対応等により、計画外停止は減少しましたが、定期点検を延期していることもあり、トラブル件数が増加しました。



## 他社・融通等の状況(8/3の状況)

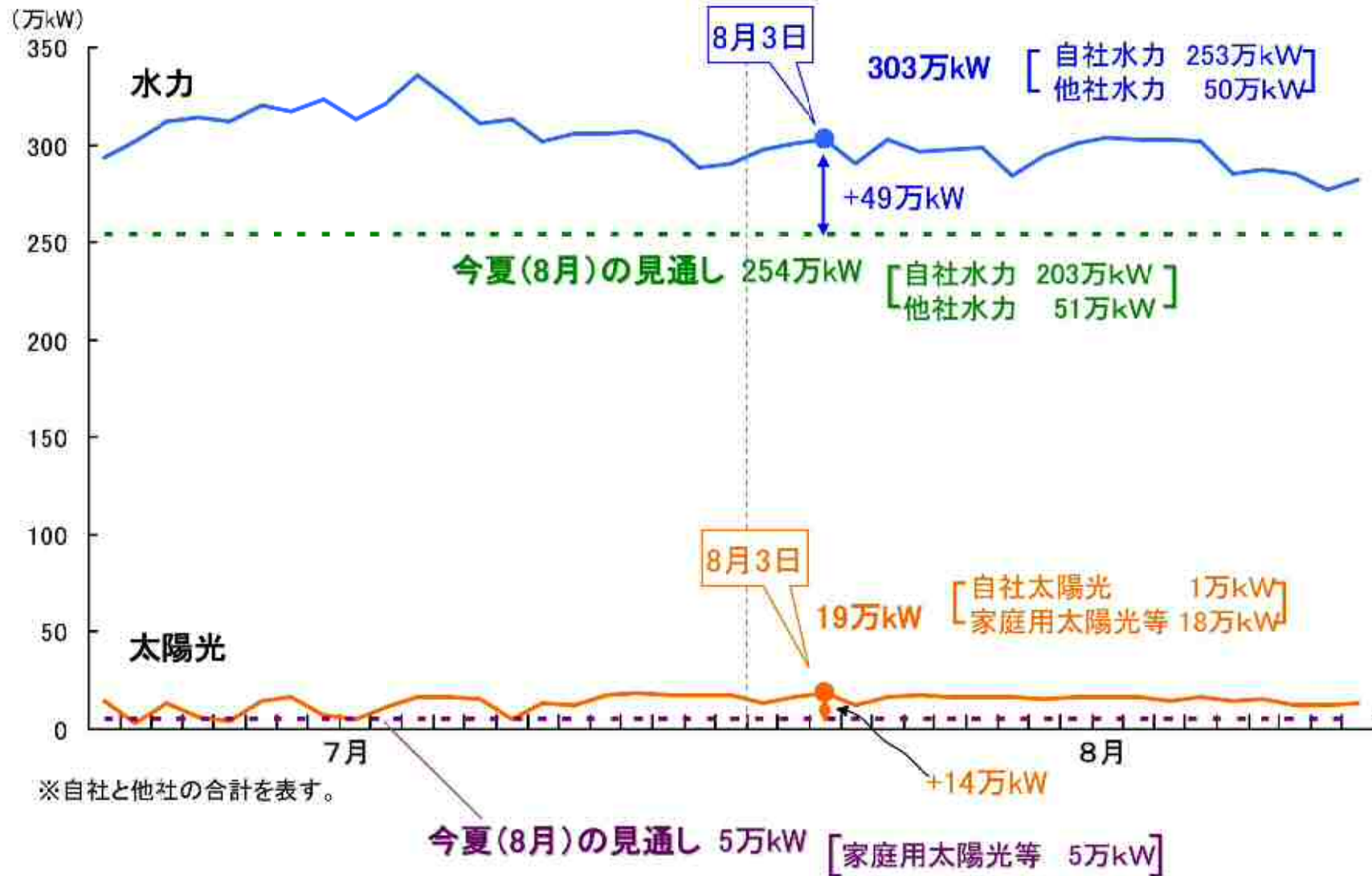
(万kW)

	種別等		今夏(8月) の見通し	8月3日	差
他社 火力	卸電気・IPP・共同火力		361	362	0
	自家発		89	106	+16
融通等	融通等 合計		121	177	+56
	(内訳)	応援融通 小計	110	160	+50
		中部電力	70	76	+6
		北陸電力	3	7	+4
		中国電力	37	77	+40
その他		11	17	+6	

※四捨五入の関係で合計が合わないことがあります。

お客さまの節電へのご協力によって生じた余力で、自家発(+16万kW)や応援融通(+56万kW)の受電量の増加が図れました。

## 水力と太陽光の状況(8/3の状況)

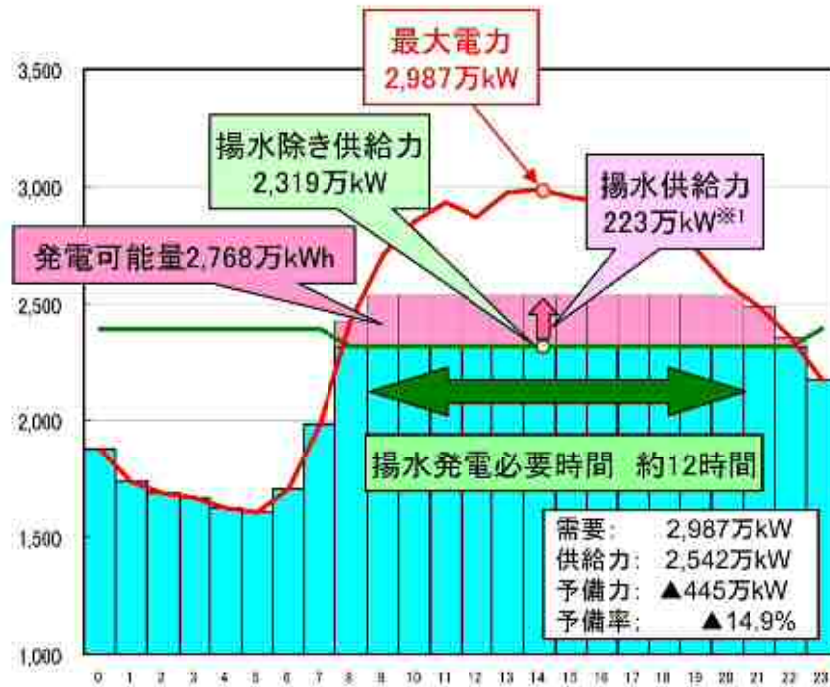


○水力は今夏(8月)の見通しに対して49万kW上回りました。

○太陽光は設備容量と日射量から推定して、今夏(8月)の見通しに対して14万kW上回りました。

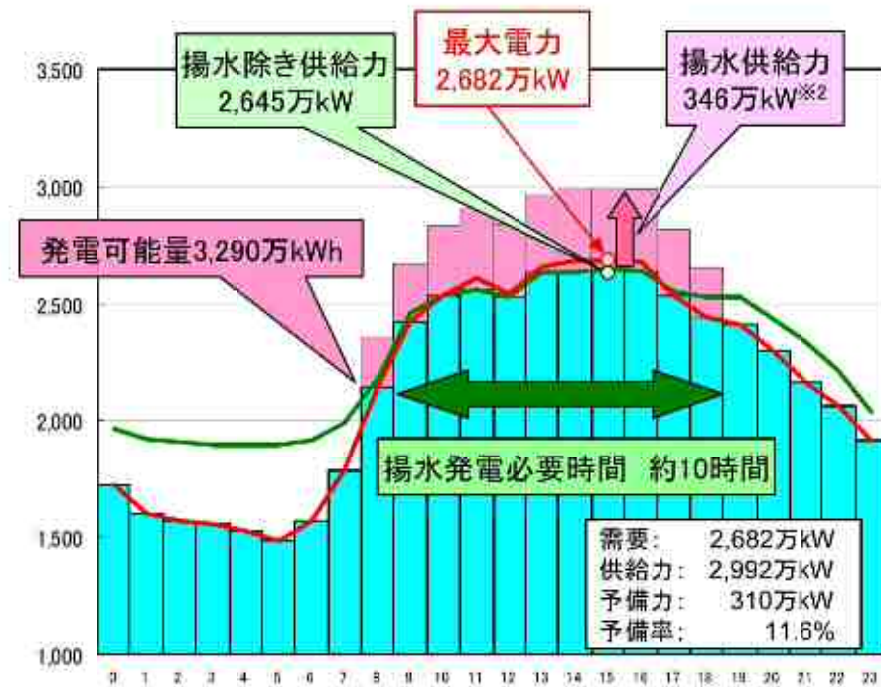
# 揚水の状況(8/3の状況)

## 今夏(8月)の見通し(5月19日報告)



※1揚水発電供給力には他社分(混合揚水16万kW)含まず。

## 8月3日

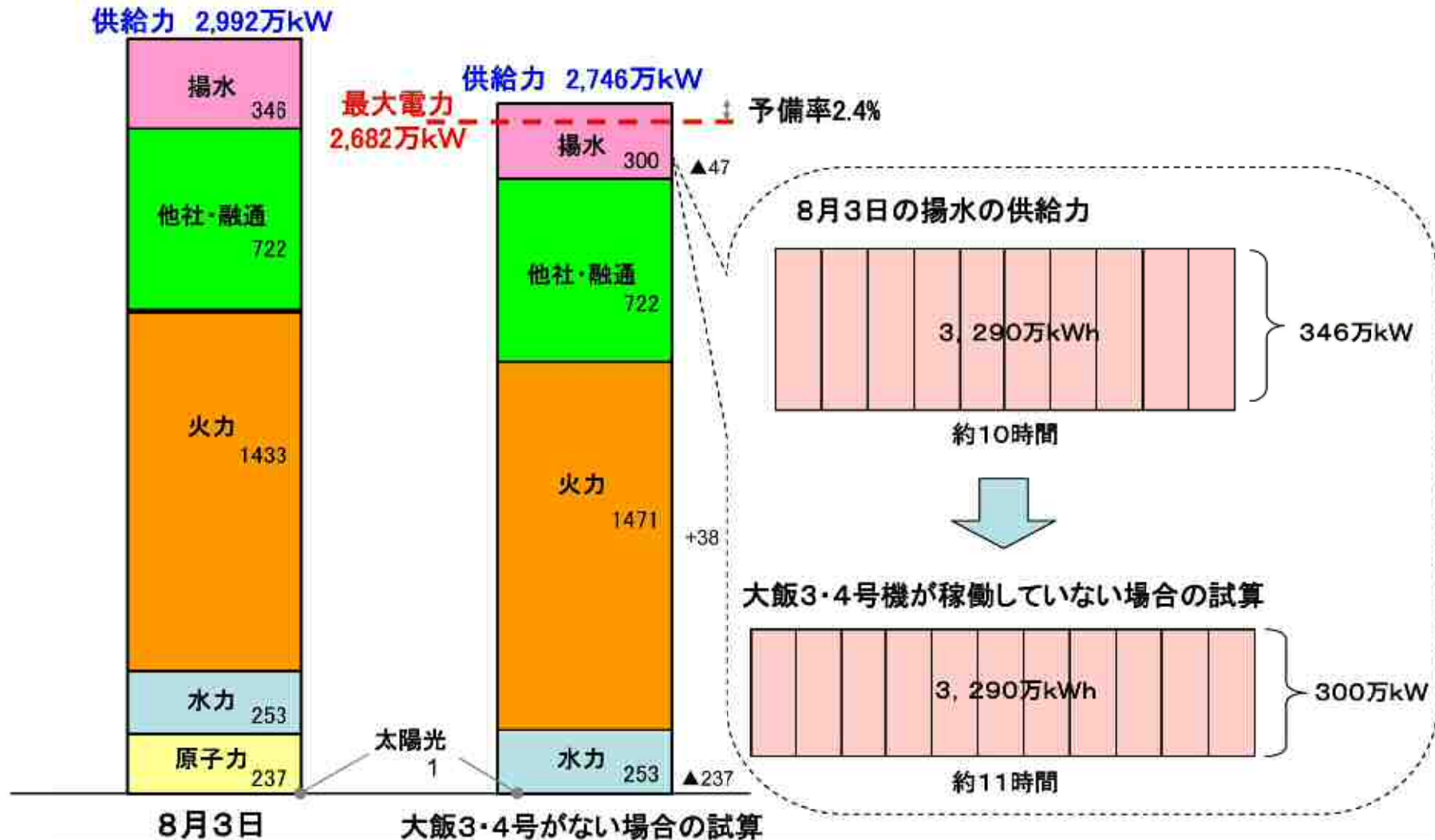


※2揚水発電供給力には他社分(混合揚水9万kW)含まず。

- 今夏(8月)の見通しから、最大電力が約300万kW減少し、大飯3・4号機の再稼動もあり揚水を除く供給力が約350万kW増加しました。
- その結果、揚水の供給力は想定値に対して123万kW増加し、346万kWを見込めました。
- 計画時点では、長時間のフル稼働を前提としていましたが、揚水以外の電源によって、需要にほぼ相当する供給力を確保できていたため、揚水はその本来の位置づけである、電源トラブル等の不測の事態への対応の供給力として運用することができました。



## (参考)大飯3・4号機が稼働していない場合の試算



- 試算方法は、8月3日実績から、大飯3・4号機(▲237万kW)を減少させ、停止火力(+38万kW)を追加し、揚水の運転必要時間が長くなることによる減少(▲47万kW)を反映しました。
- 供給力は2,746万kW、予備率2.4%となり、大変厳しい需給状況であったと考えております。

## ま と め

○本資料でご説明をさせていただきましたとおり、すべてのお客さまに様々な方法で、これまで以上に節電へのご協力を賜りましたことと、大飯の再稼動などにより追加の供給力を確保いたしましたことから、期間を通して安定した需給状況を維持することができ、今夏を乗り切ることができました。

○皆さまには大変なご不便とご迷惑をおかけいたしましたことを、改めてお詫び申し上げますとともに、皆さまの節電のご協力に心より御礼申し上げます。

○とりわけ、関西広域連合さまにおかれましては、節電要請前の検討段階から種々連携を賜り、地域の皆さまに対して積極的な節電の呼びかけを行っていただくなど、多大なるご支援、ご協力をいただきました。

重ねて、心より、厚く御礼申し上げます。

○当社としては、引き続き、電力の安定供給に努めてまいりますので、何卒、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

# ご参考資料

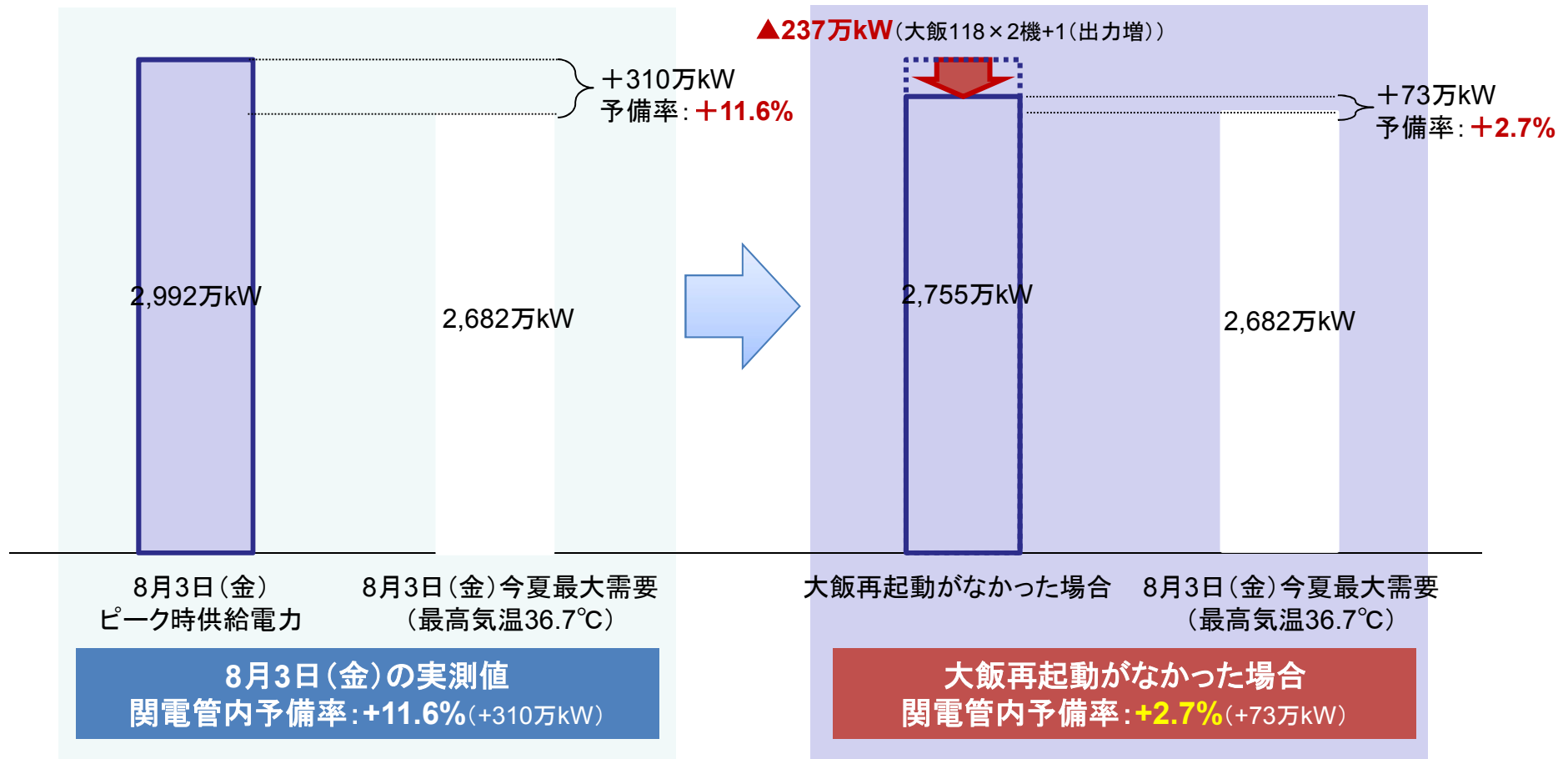
「関西電力管内および中西日本全体における  
今夏の電力需給状況について  
(平成24年9月14日 資源エネルギー庁資料)

平成24年10月13日  
関西電力株式会社



# 1. 今夏の関西電力管内の需給状況の検証

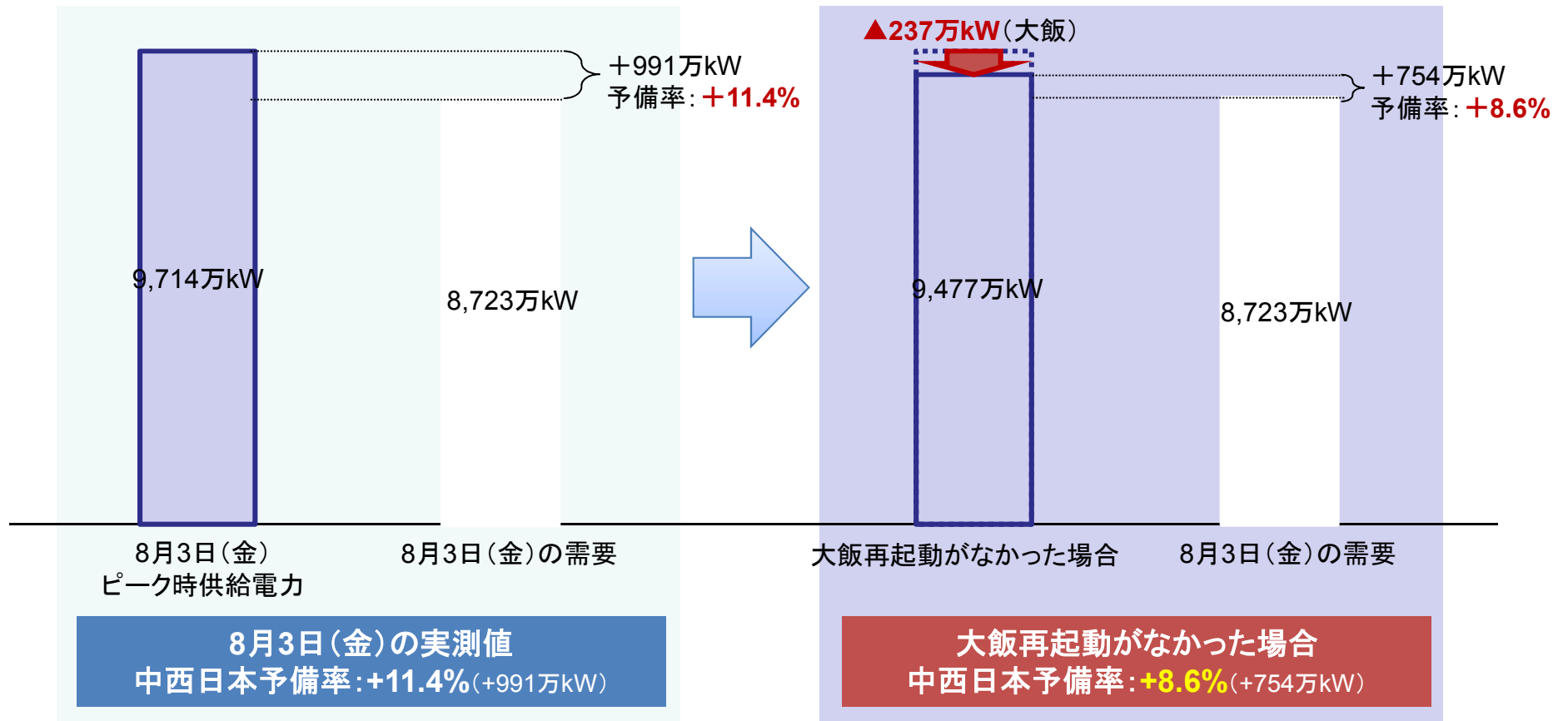
- ① 関西電力管内で今夏の最大需要を記録した8月3日(金)の予備率は+11.6%。
- ② 大飯発電所の再起動がなかったとすると、関西電力管内の予備率は+2.7%となる。これでは、瞬間的な電力の需要変動に対応するために必要な予備率「+3%」を下回ってしまう。



(参考) バランス停止させていた火力発電を起動させることによる供給力の増加+38万kWと、大飯の再起動がない場合の揚水発電の供給力の減少▲47万kWとを加味すると、予備率は+2.4% (+64万kW)。

## 2. 今夏の中西日本の需給状況の検証

- ① 8月3日(金)の中西日本全体の予備率は+11.4%。
- ② 大飯発電所の再起動がなかったとすると、中西日本の予備率は+8.6%。
- ③ 「大飯再起動がなくても、中西日本で電力融通すれば電力は足りた」との指摘があるが、この余力は、  
(A)「**想定を上回る供給増**」と(B)「**節電目標を上回る需要減**」の結果。



(参考) バランス停止させていた火力発電を起動させることによる供給力の増加+147万kWと、大飯の再起動がない場合の揚水発電の供給力の減少▲47万kWとを加味すると、予備率は+9.8%(+854万kW)。

## 2-(A) 想定を上回る供給増

① 今夏の中西日本では、**想定を上回る供給増**があった。

### 供給増の要因分析

(イ) **発電所のトラブルによる計画外停止が昨年より減少**－発電所の状況・偶発性の結果

今夏平均	今夏8月3日実績	昨夏平均	昨夏最大	今夏8月3日実績－昨夏最大
▲123万kW	▲8万kW	▲255万kW	▲420万kW(7/20)	+412万kW

(ロ) **想定以上の水力発電供給増**－降雨量の増加によって出水に恵まれた結果

8月3日実績	需給検証委想定※	今夏8月3日実績－想定
845万kW	752万kW	+93万kW

(ハ) **想定以上の太陽光供給増**－日射量に恵まれた結果


8月3日実績	需給検証委想定※	今夏8月3日実績－想定
82万kW	27万kW	+55万kW

※:これら供給力は、天候によって左右されるため、確実に見込める分として、8月の下位5日の平均出水量の過去30年平均(太陽光については日射量の過去20年平均)等で厳しめに評価。

② これらの予測できない増要因がなかったとすると**予備率は+2.2%となり、瞬間的な電力の需要変動に対応するために必要な予備率「+3%」を確保できない事態**となっていた可能性がある。

大飯再起動がなかった場合

更に上記の要因がなかった場合

中西日本の予備率 : +8.6%(+754万kW)  +2.2%(+194万kW)

(参考) バランス停止させていた火力発電を起動させることによる供給力の増加+147万kWと、上記の要因がなかった場合の揚水発電の供給力の減少▲100万kWとを加味すると、予備率は**+2.8%(+241万kW)**となり、やはり**予備率「+3%」を確保できない事態**となっていた可能性がある。



## 2-(B) 節電目標を上回る需要減

① 需要面では、概ね**節電目標を上回る需要減**を達成。

	中部	北陸	関西	中国	四国	九州
節電目標(大飯再起動後)	数値目標なし	数値目標なし	▲10%以上※2	数値目標なし	▲5%以上	▲10%以上
今夏の需要減※1 一昨年比	▲6.1%	▲6.0%	▲11.1%	▲5.0%	▲8.6%	▲9.5%

※1:各電力会社による7・8月分の推計(暫定値)。 ※2:生産活動に支障の場合は▲5%以上。

② この要因としては、(イ)国民の皆様の節電へのご協力に加え、以下の要因が考えられる。

### 需要減の要因分析

(ロ) **猛暑日(35℃以上)が一昨年の半分以下**  
 一気温の累積効果等による需要の押し上げ要因が少なかった

	中部	北陸	関西	中国	四国	九州
今夏の猛暑日数(平均気温)※3	11日(33.1℃)	4日(31.6℃)	12日(33.1℃)	9日(32.4℃)	1日(32.3℃)	5日(32.5℃)
一昨年の猛暑日数(平均気温)※3	20日(32.2℃)	3日(31.7℃)	24日(33.8℃)	20日(33.1℃)	7日(32.6℃)	21日(33.3℃)

※3:中西日本の7・8月分の実績。

(ハ) 平年に比べ**最大需要が猛暑時間帯から夕方等にシフト**  
 一計画調整契約の増加により、猛暑時間帯の需要が抑えられた

最大需要記録時間帯	11~12時	13~16時	16時~
今夏※4	17%(7日)	54%(22日)	29%(12日)
過去5年平均※5	16%	75%	8%

	8月3日実績	需給検証委想定	実績と想定との差
計画調整契約の 実行量 (中西日本)	▲318万kW	▲223万kW	▲95万kW

※4:関西電力管内の7・8月分の実績。(土日、祝日、お盆を除く。)

※5:関西電力管内の7・8月分の過去5年間の実績。(土日、祝日、お盆を除く。)

### 3. 今夏の需給状況に関する現時点での総括

1. 8月3日の関西電力管内の予備率は+11.6%。  
大飯発電所の再起動がなかったとすると、関西電力管内の予備率は+2.7%となり、瞬間的な電力の需要変動に対応するために必要な予備率「+3%」を確保できなかった。
2. この日の中西日本全体の予備率は大飯再起動がなかったとしても+8.6%なので、「大飯再起動がなくても、中西日本で電力融通すれば電力は足りた」との指摘がある。  
しかし、この中西日本の余力は、「**想定を上回る供給増**」及び「**節電目標を上回る需要減**」によるもの。
  - (1) 想定を上回る供給増
    - (イ) 発電所のトラブルによる**計画外停止が昨年より減少**－発電所の状況・偶発性の結果
    - (ロ) **想定以上の水力発電供給増**－降雨量の増加によって出水に恵まれた結果
    - (ハ) **想定以上の太陽光供給増**－日射量に恵まれた結果
  - (2) 節電目標を上回る需要減
    - (イ) **国民の皆様の節電へのご協力**
    - (ロ) **猛暑日が一昨年の半分以下**
    - (ハ) 計画調整契約の実行量の増加等により、平年に比べ**最大需要が猛暑時間帯から夕方等にシフト**
3. 供給面で、仮に大飯発電所を再起動せず、「想定を上回る供給増」もなかったとすると、中西日本で電力融通しても、瞬間的な電力の需要変動に対応するために必要な予備率「+3%」を確保できない事態となっていた。
4. 需要面でも、仮に一昨年並の猛暑日数だったり、最大需要の時間帯のシフトが小さかったりした場合には、需要が増加し、需給がひっ迫していた可能性がある。
5. これらを考えると、需給ひっ迫の事態を招かないよう備え、国民生活を守るという観点からは、大飯再起動は妥当な判断だったと認識。